巻頭言

旭川医療センター医学雑誌　第３巻の発行にあたって

院長　西　村　英　夫

２年前に創刊した、旭川医療センター医学雑誌も第３巻を迎えます。２巻までは勢いで出せますが、なかなか３巻まで行くと大変なものです。ご尽力くださった編集担当の平野先生、臨床研究部の鈴木先生、村上さんに感謝したいと思います。

さて、第３巻も原著論文、症例報告、CPC、診療の工夫、研修報告など多岐に渡ります。当院は、NHO142 病院では最北の病院ですが、臨床研究部、治験管理室も備え、臨床、研究共に頑張っているものと自負しております。また、ネットワークを生かし、国内の他病院へのフェローシップ研修もここ数年おこなわれており、人材育成に役立っているものと考えます。研修は、当院では 10 年前から初期での東京医療センターでの ER 研修などを取り入れていますが、最近は逆に東京医療センターから地域医療の実習に当院や留萌、富良野においでになるパターンが定着し、喜んでおります。

当院は、今年地域医療支援病院の申請をする予定ですが、臨床での頑張りだけではなく、立ち止まって、研究の視点で物事を俯瞰するのも大事かと考えます。そういう意味では臨床での患者さんの診療に基づいた論文が多数出てくるのは喜ばしいことです。来年度以降も継続して、臨床、研究のモチベーションをもって、その成果をこの雑誌で披露することを期待します。